（様　式）

令和５年度　学校評価書

学校名：静岡市立井宮小学校（籠上中グループ）

静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動

大項目	中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から（小中一貫教育推進委員会等）	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標）
【視点１】 学校の教育目標を グループ校で共有する	豊かな心と志をもち 自ら切り拓く子の育成	①　（独自）将来の夢や目標をもち、その具現に向けて取り組んでいる児童生徒 学校アンケートでは児童・保護者共に 78%の評価である。児童には活動の見通しをもたせることで具体的なめあてを立たせ、ステージ毎の振り返りを行った。保護者には、学校だよりや学年だより等で学校、クラスでの取組みを伝えていった	A	【学び方の基礎・基本を身につける】 **〇生活リズムを大切にしていきたい** ・家庭の力を育てていきたい。家庭の多様性に合わせた伝え方が必要になってくる。生活リズムが整うよう、具体的な方法や手段を伝え、子どもたちの学習・生活を支えていきたい。 **〇宿題の進め方** ・「宿題をやる意味や目的」を子どもたちが理解して取り組めるようにしていく。生活リズムの中に宿題の取り組みも入れていけるとよい。 【地域の素材・人材の活用】 〇コミュニティ・スクール ・地域と触れ合えていると感じている。今後、コミュニティ・スクールも本格化してくる。地域の良さを学習の中に取り入れていけるとよい。 【子どもを中心に】 〇信頼される先生 ・子どもの発する信号やサインに気付ける先生であってほしい。いつもと違う表情や言葉使いに気を留めながら、保護者と共に子どもを支える先生に。 〇学校を信頼する親に ・子ども中心ととらえ、学校、先生と一緒に子どもを育て支えていく。	〇児童をよく観察理解し、その表れを肯定的に受け止め認めていく。児童が自信をもって取り組めるよう、引き続きステージ毎のめあてを立てさせ、表れを認めていくなど個別に対応をしていく。
【視点２】 ９年間の連続性、系統性を強化した教育課程を編成・実施する	発達段階に応じた学び方と 学習習慣の育成	②（独自）授業や家庭における学び方の基礎・基本を身に付けている児童生徒 学校アンケートでは児童 68%保護者 82%が肯定的な回答であるのに対し、教職員の 30%は「あまり思わない」と答えている。さらに「家庭学習の手引き」や宿題の取り組ませ方など見直しを進めていく必要がある。	B		〇家庭には家庭学習の進め方を年度当初や長期休み前など、意識できるように伝えていく。児童には、学習の進め方がすぐにわかるよう、クリアファイル化し確認できるようにしていく。
【視点３】 教職員の協働、児童生徒の交流	つながりと学び合いを深める 児童・生徒間交流	②　（独自）小中のつながりや学び合いを意識して教育活動を行っている教職員 「聞く力」児童 90%「伝える力」児童 77%と高い評価であるが、教職員では「あまり思わない」に 30%の評価がつくなど捉え方に差がある。学び合いを深めるために必要な「話す・聞く」では、伝えるためのスキルや大切なことを聞く練習を繰り返し行っていく。	B		〇「聞く力」「話す力」を伸ばせるようステップ表を活用、授業はもちろん、様々な活動の場面で取組めるようにしていく。6 年生や保健委員会、児童会など高学年を中心に、籠上中学校との関わりがもてる企画の計画を立てていく。
【視点４】 地域との連携	地域の教育資源を活用した 教育の推進	③　（独自）地域の素材や人材を活用したり、地域へ発信したりする教育活動を行っている教職員 児童 90%、保護者では 84%の評価であるが、教職員は「だいたいそう思う」が約 69%。「あまり思わない」が約 19%と児童・保護者と教職員に差がある。出前講座や社会科見学等を行いながら、教科の横のつながりを意識していく。	B		〇コミュニティ・スクールの充実を図ることで、地域のコーディネーターと協力しながら総合的な学習の時間等で地域素材や人材を活用していく。
学校環境	安全に安心して生活できる 環境づくり	⑤（独自）安全指導や施設点検、環境整備などに努めている教職員 生徒指導からは「歩き方」の指導、UD の視点に立ち右側通行の札を付けるなど廊下の歩行には気を付けている。何より、高学年が静かに廊下を歩いていたり、丁寧に掃除をしたりしている姿が他学年には良いお手本になっていた。	A		〇児童の活動する中で危険個所がないか引き続き毎月点検を行う。校内での怪我や事故防止の為、右側通行、廊下階段の歩き方等 UD の視点に立ち徹底をしていく。
グループ校の軸となる取組・活動		グループ校の評価指標	自己評価		
自分を見つめ、生き方を学ぶキャリア教育		⑥（独自）人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒 児童、保護者、教職員共に同じ意識をもっていることがアンケートからわかる。「いいことみつけ」等、日々の振り返りの中から気づいたことを伝え合ったり、学校での表われを保護者に直接伝えたりすることで自己肯定感や自己有用感を高めていった。	A		〇児童には自分の良いところを見つけながら仲間との関係を築いていってほしい。そのためには、引き続き「いいとこみつけ」や日々の振り返りなどから、自分自身の生き方を見つめながら自分の将来に期待感をもって学校生活を送れるよう、キャリア教育等を充実させていく。

各学校の評価

大項目	中項目	評価指標	自己評価		改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標）
重点目標の具現につながる手だて （自分と仲間のよさを認め、共に高め合う子）	他と関わりながら、学びを深める授業づくり （学びづくり）	⑦（独自）対話的活動を通して、自分の考えを深めている児童 校内での研修ではどの学級も国語の授業を公開し、児童の実態や学習内容に合わせて様々な対話的活動を取り入れ、それに対する成果と課題を検証し、有効な方法を研修してきた。子どもたちの学力差はあるが、お互いに説明し合ったり、意見を交流して学び合ったりするなど対話をすることで考えを深めようとする学び方は全体的に育ちつつある。	B	【考えを深めていく】 〇「話す力」「聞く力」「読む力」が自分の考えを深める土台となる。子どもによっては得意不得意もある。どんな方法が自分にとって有効なのか知ることが必要。 【関わり合える機会を】 〇自分の良さを知っているから相手の良さを見つけることができる。 【一人一人に合った支援を】 〇不登校児童の数が多くなっている。学校と家庭が同じ方向を見て支えてほしい。	〇児童が話し合い解決したくなる学習課題や学習問題を吟味していく。また、その素地である話す・聞く・読むについても継続的に練習していく。
	関わり合いを通して、自他のよさや成長を実感していく教育 （特別活動）	⑧（独自）関わり合いを通して、自他のよさや成長を実感している児童 児童会活動では、ペアあいさつやあいさつカードによって、仲間と交流しながら活動することができた。委員会活動・学年委員会においては、５・６年生で積極的な交流ができた。また、ペア活動では、月１回の遊びに加えて、ペア読書、ペア清掃など、幅広い活動ができた。ペア、異学年での関わり合い、上級生の姿を見て学ぶという関わり合いの機会を増やすとともに関わりの質を高めていきたい。	B		〇児童会活動でのペアあいさつ、ペア活動など引き続き行っていく。下級生から見てお手本となるような上級生を目指していく。
	温かな人間関係に基づく学級経営 （心づくり）	⑨（独自）互いを尊重し合う温かな人間関係づくりや子ども一人一人に寄り添った指導・支援に努めている教職員 それぞれの教職員が子どもたちの悩みや相談に寄り添い、個々のよいところを認め励まして指導・支援を行っている。学校アンケートでは、児童 90%、保護者 89%が肯定的な回答であった。一方で、どちらも 10%程度否定的な回答があるため、これらの家庭の思いを把握できるように努めたい。	A		〇「悩み事アンケート」を引き続き行っていく。児童の様子をつぶさに見ながら変化に気づいていく。「サポートファイル」等作成しながら、保護者と共通認識をしながら児童を支えていく。

静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動（全国調査等の活用）	学力の状況 （全国学力・学習状況調査）	井宮小	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」ではほぼ水準。一方、「情報の扱い方に関する事項」では平均を大きく下回った。また、「書くこと」では平均を上回ったが、「話すこと。聞くこと」「読むこと」では平均を下回る結果であった。算数では、「図形」「変化と関係」では県・全国平均とほぼ同水準であった。一方、「数と計算」「データの活用」では平均を下回った。質問紙の中で気になったのは、「学校に行くのは楽しい」で平均を下回っていることである。その要因としては、関わり合いの中で「話す・聞く」に苦手意識を持っている子が多いこと、また、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりする、粘り強く考えてお互いに「高め合う」ことに苦手意識を持っている子が多いことが考えられる。	【聞く・話す・読む】（井宮小） 〇聞く・話す・読むに苦手意識を持っている。学習の土台になるところであり力をつけてほしい。データの活用は、見方や読み方を知ればわかることなので、学習の中で練習を重ねてほしい。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 〇児童の意識や発達段階にあった学習課題や学習問題を提示することで、どの子にもわかる授業を目指す。 〇聞く人を意識した話し方、話している内容を落とさない聞き方など、仲間を意識した授業展開を構成していく。 〇文の内容やデータなどを読み取る力（読解力）が付くよう、読書の時間を設けるなど本に親しめるようにする。
		井宮北小	令和４年度の課題であった、自分の考えを条件に合わせて書いたり、説明したりする力は改善傾向が見られた。しかし、情報を読み取ったり、処理したりする力に課題が見られた。今後、国語、算数に限らず様々な教科で、情報を活用する活動を大切に指導していきたい。学習状況調査では、他者を思いやる心が育ち、夢や目標をもって学校生活を送っていることが分かった。これは、学校教育目標の「豊かな心」「志をもつ」を大切にして教育活動を実践してきたからである。一方で、重点目標が掲げる主体性に課題があることが明らかになったので、今後自尊心を育むような取組を計画的に実践する必要性がある。		
		籠上中	【国語】全国、静岡県の平均正答率とほぼ同じ。〇漢字を正しく書く問題や、現代の言葉についての知識や技能に関する問題の正答率が高い。▲わが国の言語文化に関する問題や、記述式の問題における正答率が低い。【数学】全国、静岡県の平均正答率とほぼ同じ。〇「数と式」の領域や、「関数」のグラフの解釈に関する問題の正答率が高い。▲「図形」で条件を変えた場合に、事柄が成り立たなくなる理由を証明する問題の正答率が低い。【英語】全国、静岡県の平均正答率とほぼ同じ。〇「話すこと」のテストで、英語の適切性を図る問題や、記述式の問題は正答率が高い。▲「話すこと」のテストで、英語の正確性を図る問題や、短文で答える問題は正答率が低い。【質問紙】〇「自分と違う意見について考えたり、自分で考えたことをまとめたりすることができる」と考えている生徒が 80%を超えている。▲「自分の考えを工夫して伝えたり、話し合って深めたり広げたりすることができる」と考えている生徒の割合が全国、静岡県の平均よりもやや少ない。特に「工夫して伝えること」に関しては、60%を下回っている。		
	体力の状況 （新体力テスト、全国体力・運動能力、運動習慣調査）	井宮小	（学校説明）男子は上体起こし（筋持久力）の記録は良いが、握力（筋力）がやや弱い傾向である。女子は全体を通してほぼ全国平均値であるが、ソフトボール投げ（巧緻性・投球能力）の記録がやや良い傾向である。今年度は、全学年共通の「持久走カード」を作成し、朝や昼休みに音楽を流したことで、昨年に比べて多くの児童が自主的に練習に取り組んだ。目標をもたせたり、練習方法を紹介したりしたことで、子どもたちの意欲の向上につながったと考えられる。	【体力の向上】 〇外で思い切り体を動かすことができるようになってきた。休み時間に読書をしたい子もいれば外で遊びたい子もいる。その子に合った体力のつけ方であってよい。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 〇引き続き持久走では「持久走カード」など、前向きに取り組める工夫をしていく。クリアファイル等でカードを身近に置き、前向きに取組む姿勢を支える。
		井宮北小	（学校説明）新体力テストはどの種目も全体的に全国平均を下回っていた。４年生においては、昨年度の記録より低下している種目もある。児童の様々な運動をする上での基礎的な技能が定着していないことが分かった。基本的な技能の定着のために、体育の準備運動にドリルトレーニングを取り入れ、経験的に児童に技能を身に付けさせていきたい。また、夏の猛暑で運動が制限される期間を考慮して、年間のカリキュラムの見直しもしていく必要がある。		
		籠上中	（学校説明） 令和４年度同様に持久力向上に向けて球技・水泳・長距離走などの単元に重点的に取り組んだ。しかし、男女ともに持久走や２０ｍシャトルランで全国平均を下回った。来年度も持久力向上を課題として設定する。そして、保健体育授業、部活動、その他学校における教育活動全体を通じて持久力向上を目指して活動していく。		
	生徒指導の状況 （学校いじめ防止基本方針）		年３回の悩み事調査をもとに悩み事があると回答した児童に対して、担任が丁寧な聞き取りを行っている。そこから児童の悩みに耳を傾け、共に解決方法を考え対応している。悩み事調査だけではなく、日頃の児童の様子にも教職員一同で気を配り、情報共有をし、気になる児童には教職員から声をかけている。保護者からの相談があったときは、今後どうしていきたいかの思いも含めて話を聞き、複数で対応した。その結果、いじめ相談に関して、本人や保護者が納得して解決している。継続観察の子もいるため、今後も丁寧に話を聞き対応していく。	【お互いを尊敬しあえる関係づくり】 〇他人事ではなく自分事としてとらえられるような関係づくりができるよう､コミュニケーションを大切にしていきたい。	改善策（来年度の目標設定、具体的な取組目標） 〇学校での取り組みが保護者に伝わるよう、いじめアンケートの掲載や学校評価書の掲載に努めていく。